

環境経営レポート

対象期間：令和 5年5月1日～ 令和 6年4月30日
完 成



着 手 前



令和5年度 自社受注工事 急傾斜地対策事業 浮橋古根急傾斜地工事

発行：令和6年7月1日

株式会社 共進土建

目次

1.事業の概要	1
2.組織	2
3.環境経営方針	3
4.環境経営目標と実績	4～5
5.環境活動計画と実施事項	6～9
6.環境経営計画の取組内容とその評価	10
7.次年度の取組内容	10
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価	11
9.地域への貢献	12
10～11環境活動取組事項	13～14
12.代表者による全体評価と見直し結果	15

1. 事業の概要

1. 事業所名 株式会社 共進土建
2. 代表者氏名 代表取締役 土屋 靖志
3. 所在地 静岡県伊豆の国市浮橋440-2 資機材置場 伊豆の国市浮橋1440-1
TEL 0558-79-0144

E mail kyoushin@minos.ocn.ne.jp

4. 事業内容

建設業 静岡県知事許可（特-01）第 014822号

建設業の種類 土木、とび・土工、舗装、しゅんせつ、水道施設、解体、石工事業

産業廃棄物収集運搬 第 02201154335号 （ 自社の収集運搬のみ ）

5. 従業員数 15名

6. 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 川口 康司
連絡担当者 土屋 朝幸
※ 連絡先は、上記に同じ
エコアクション21認証登録
2018年3月9日 認証番号0012201
更新登録日 2022年3月9日



7. 事業規模

①創業 昭和47年

②事業規模

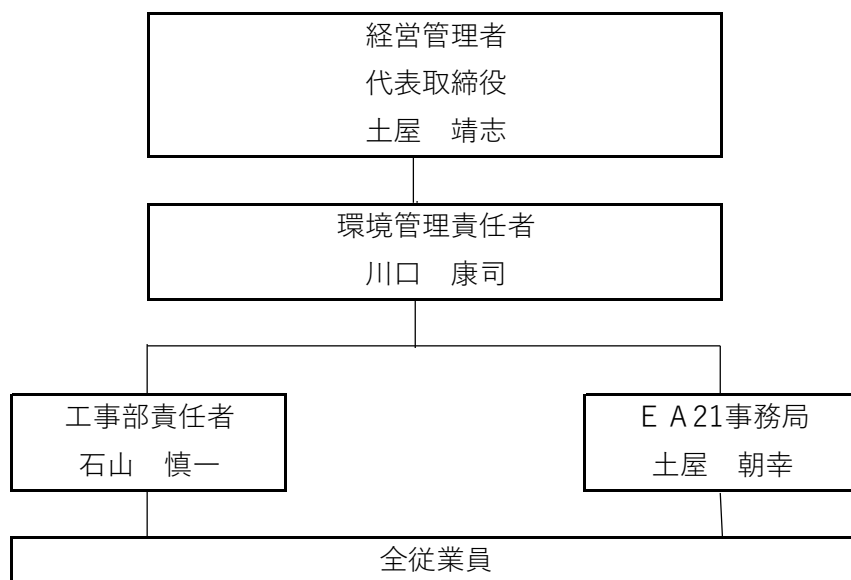
活動規模	単位	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
売上高	百万円	265	413	358	266	164
工事件数	件	元請9 下請3	元請9 下請4	元請10 下請5	元請8 下請3	元請 9 下請6
従業員	人	16	16	17	15	15
事務所床面積	m ²	186.03	186.03	186.03	186.03	186.03
資機材面積	m ²	2849	2849	2849	2849	2849
残土処理場面積	m ²	8800	8800	8800	8800	2023/10/31完了

8. 対象範囲 全社、全活動及び全従業員を対象

所在地



2.組織



《環境管理組織における機能と役割》

経営責任者：代表取締役 土屋 靖志

- ・環境経営方針の策定
- ・必要な経営資源の準備
- ・環境経営の評価と見直しと確認

環境管理責任者：川口 康司

- ・環境経営計画の推進
- ・環境経営計画に沿った活動の確認と管理
- ・経営責任者への活動報告
- ・環境経営計画の作成

工事部責任者： 石山 慎一

- ・環境経営計画の実施と教育指導
- ・緊急時対応訓練の実施
- ・問題点の確認と是正処置

E A 21事務局： 土屋 朝幸

- ・環境文書のまとめ、記録・管理
- ・環境関連の外部からの苦情対応

3. 環 境 経 営 方 針

基本理念

当社は、自然豊かな伊豆半島の伊豆の国市に所在地をおき、土木に関する事業活動を行っております。環境保全に積極的に取り組み、自分たちの行っている事業活動が自然環境や地域で暮らす人々に与える影響を考え、環境負荷の低減に社員全員で取り組みます。

基本方針

- ・エコアクション活動に取り組み初めてこの数年に於いて、元請工事増加に伴い各種エネルギーの使用量とCo2排出量が増加傾向にありますので、環境への負荷の自己チェック表のデーターを適切に把握し環境経営システムの構築、運用を維持し改善を進めて参ります。。
- ・施工量に比例し、コンクリート塊、アスファルト塊等の、産業廃棄物の排出量も増加してるのでマニフェストで管理し再資源化の徹底に努めます。
- ・新規施工現場に於いて、周辺環境、生態系、景観に配慮し着手前に資材、使用機械、施工方法等、適格な施工計画をたて、技術、生産性の向上に努め安全で法令、条例を遵守した施工に取り組みます。
- ・全従業員の技術、知識を向上させる為、資格の取得、教育、設備等の投資を進め社員及び、家族が安心して生活をおくれるよう、環境に配慮した健全な経営の好循環を基本方針に実績と信頼ある組織の継続と改善を進めて参ります。

制定 平成29年 9月1日

改定 令和2年 5月1日

株式会社 共進土建

代表取締役 土屋 靖志

4. 環境経営目標

2022年度実績値を基準

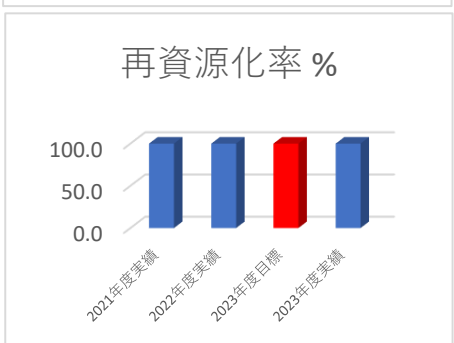
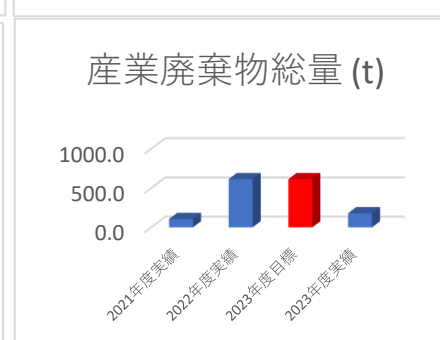
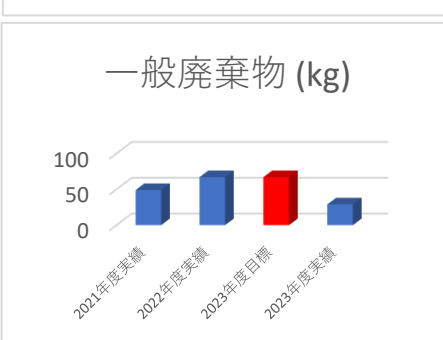
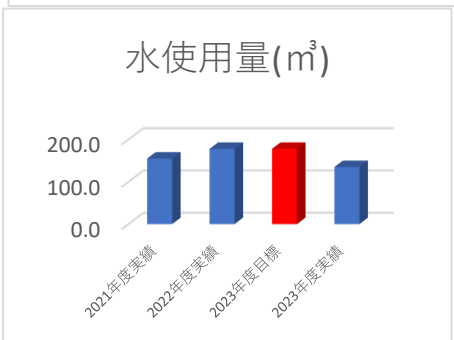
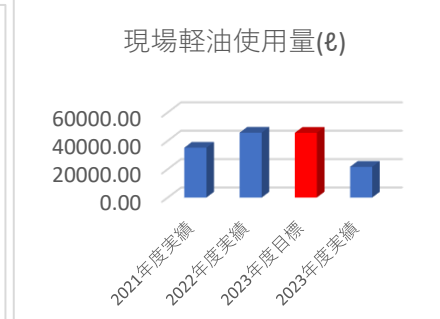
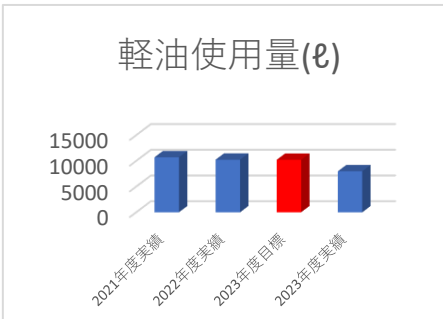
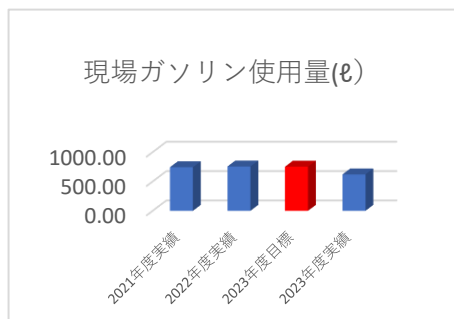
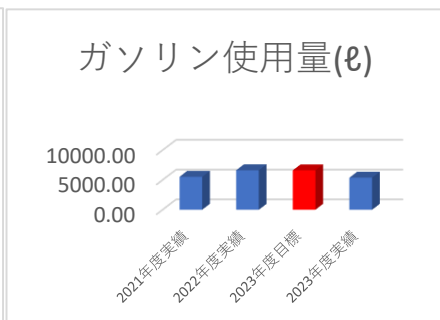
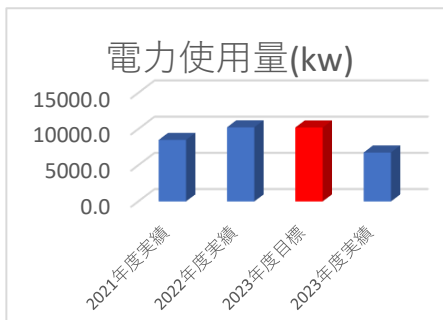
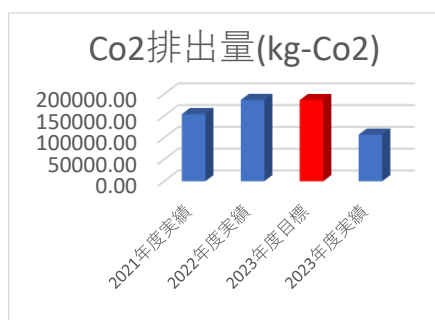
項 目		単位	2022年度 実績	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
二 酸 化 炭 素	二酸化炭素の削減	kg-CO ₂	166005	165672	165341	165010
	購入電力	Kw	10237	10217	10196	10175
	ガソリン	ℓ	6625	6612	6599	6585
	現場ガソリン	ℓ	754	752	751	749
	軽油	ℓ	10222	10202	10181	10160
	現場軽油	ℓ	45690	45599	45507	45416
廃 棄 物	一般廃棄物	kg	67	67	67	67
	産廃総排出量	t	615	614	613	611
	再資源化率	%	100	100	100	100
水道使用量の削減		m ³	178	178	178	177
事務用品のグリーン購入		%	100	現状維持	現状維持	現状維持
地域貢献活動		回	2	2	2	2

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2021年度の調整後の排出係数0.451kg-CO₂/kwhを2022年度実績から使用します。

環境経営目標を近年の営業実績状況より精査し、今後の目標値を、22年度実績を基準に見直し23年度より二酸化炭素、電力、ガソリン、軽油は3年後迄-0.2%、一般廃棄物廃棄物は現状維持。産業廃棄物量は施工状況で削減等が難しいので、実績値を把握し再資源化率を100%に設定します。水道使用量は-0.1%とする。環境配慮施工については、現場内容から数字による目標設定が難しいので環境活動計画のみとする。

環境経営目標、課題の策定、期待するメリット。

No.	活動目標、課題	取り組み手段	活動による効果
1	二酸化炭素排出量の削減 近年の工事施工状況より中長期の目標を2022年度の実績値を基準に設定します。施工現場事に異なる条件を計画する。	現場の作業規模、環境を考慮し工法、工程を工夫し適切な機械の選定。低炭素型やITC重機の導入。燃料消費量の少ない現場への通勤、資材の運搬の計画。定期的な機材のメンテナンス。	無理、無駄のない重機、社用車の運転、メンテナンスにより故障や化石燃料削減によるコスト削減、温室効果ガスの排出削減、従業員の取り組み意識が高まり技術の向上と安全作業の構築。
2	建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上 産業廃棄物量の再資源化率を100%に設定します。	施工内容の廃棄物の重量を確実に把握し適正な運搬ルート、車両、処理業者を選定、過積載防止対策、安全運転の徹底、運転者のアルコールチェック。資材の発注時工事内容を精査し、ロスの低減。	工期短縮、経費削減。再資源化率の向上。毎日のアルコールチェックによる法律の遵守。交通事故防止削減。
3	水使用量の削減 コロナ対策の手洗いうがい時の節水水道管漏水の定期点検の実施、又排水時、有害物質混入防止	現場散水等は隣接する農業用水の利用。手洗い時の節水の徹底水道管漏水の定期点検実施。油、薬剤等排水厳禁。	手洗いうがいは優先的に健康優先。コスト削減 水質の確保、水生生物の保護
4	施工製品の品質向上 各現場の環境、施工条件を考慮して要求された以上の品質確保。	設計照査を綿密に行い、構造物施工時の安全作業と品質精度の再確認をし、規格外品の構造物の取壊しを無くす。季節の気温や降水等、天候、現場周囲の環境条件の熟知	現場周囲の方への配慮により安全安心生活の確保による信頼関係の確立委。発注者及び顧客の信頼度向上で工事の受注拡大。 工期短縮



評価及び是正措置

環境経営目標に記載した様に目標値の見直しを行い22年度実績値を基準にした結果と今年度の売り上げの減少からすべての目標値を達成しました。

購入電力の二酸化炭素排出係数は東京電力株式会社の2021年度の調整後排出計数 [0.451 kg-CO₂/kWh]を2022年度から使用いたしました。

取組項目	単位	2021年度実績	2022年度実績	2023年度目標	2023年度実績	目標達成率	評価
CO2排出量	kg-Co2	136996.72	166005.22	165672.00	93318.35	177%	○
電力使用量	kwh	8497.0	10237.0	10217.0	6759.0	151%	○
ガソリン使用量	ℓ	5531.72	6625.68	6612.00	5384.73	122%	○
建設現場ガソリン使用量	ℓ	742.97	754.73	752.00	620.25	121%	○
軽油使用量	ℓ	10695.7	10222.11	10202.00	7972.63	127%	○
建設現場軽油使用量	ℓ	35114.60	45690.89	45599.00	21615.93	210%	○
水使用量	m³	155.0	178.0	178.0	135.0	131%	○
一般廃棄物	kg	49	67	67	29	230%	○
産業廃棄物総量	t	107.1	615.0	614.0	180.00	341%	○
再資源化率	%	100.0	100	100	100	100%	○

* 評価基準 目標値/実績値での比較 ○ = 100%以上 △ = 90~99% × = 89%以下

5. 環境経営計画

スケジュール（月）

目的	区分	活動項目	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
二酸化炭素排出量削減	使用電力	適正な冷暖房温度の設定厳守												
		OA機器省電力モード待機電力の確認												
		LED照明器具の導入												
		休日等長時間不使用のOA機器の節電												
		* 重点実施内容	猛暑日は体調優先で熱中症に注意											
	化石燃料	車両、重機の日常点検												
		交通ルール遵守												
		重機、車両のエアコンの適正温度の設定												
		帰り荷の促進												
		作業に応じたアクセル調整												
		Co2排出量の削減												
		* 重点実施内容	適正な施工方法や使用機械の選定											
節水	上水	水道水の節水												
		水漏れ点検の実施												
		* 重点実施内容	水質汚濁防止											
廃棄物の削減	一般廃棄物	廃棄物の分別を徹底する												
		コピー用紙の再利用（裏面再使用、メモ用紙等）												
		ミスコピー、ミス印刷の消滅												
		ダンボール、ビン、缶の分別再資源化												
		* 重点実施内容	再資源化											
	産業廃棄物	建設副産物の分別徹底による再資源化												
		建設副産物の運搬時過積載禁止の管理												
		電子マニフェストの使用を推進し適正に管理												
		再生材の利用を促進する												
		* 重点実施内容	分別で再資源化											
グリーン購入	事務用品	事務用品の購入についてはグリーン製品を購入												
		* 重点実施内容												
環境教育	社内	定期的に環境教育を実施する	令和6年4月											
		緊急対応訓練実施 令和6年 4月	傷病者の発生時の処置訓練											
環境コミュニケーション	社内	内部コミュニケーション	従業員のスキルアップ											
		社内コミュニケーション	地元公園の草刈り清掃、アダプトロード											

5. 環境経営計画

目的	区分	責任者	活動項目	評価	実施事項	次年度の取り組み
二酸化炭素排出量削減	使用電力	土屋	空調の適温化冷房28℃暖房20℃	○	フィルターの定期清掃管理。クールビズウォームビズ	継続実施
			OA機器省電力モード	○	各自パソコン等の夜間、休日の主電源のOFF。なるべく残業を控える	継続実施
			LED照明器具の導入	○	不必要な照明の消灯	継続実施
			夜間、休日は電気機器の主電源を切る	○	使用の少ない電気機器はコンセントを抜く	継続実施
			* 重点実施内容	○	近年の夏季における連日の猛暑日は無理せず体調優先的に温度設定を行う。	継続実施
	化石燃料	石山	車両の適正な空気圧設定	○	点検簿にて日常管理	継続実施
			安全運転遵守	○	ドライブレコーダーを装着、安全通行厳守	継続実施
			重機、車両のエアコンの適正温度の設定	○	極端なエアコン運転禁止、アイドリングストップ	継続実施
			帰り荷の促進、過積載防止対策	○	ETCを装着して有料道路を利用し通勤時間の短縮、燃費向上	継続実施
			重機作業時過剰な負荷を掛けない	○	アイドリングストップ、アクセル調整	継続実施
			低騒音、排ガス対応の重機を使用する。	○	アドブルー搭載の車両、重機の入れ替え	継続実施
			* 重点実施内容	○	大規模な土工事は施工方法や適切な機械の選定	継続実施
節水	上水	川口	現場での散水や重機等の洗車の節水	○	事務所付近の用水利用	継続実施
			水漏れ点検の実施	○	定期点検、水道メーターで確認	継続実施
			* 重点実施内容	○	水質汚濁防止対策を現場で行う	継続実施
廃棄物の削減		土屋	廃棄物の分別を徹底する	○	現場で発生する金属類の有価物を分別管理	継続実施
			コピー用紙の再利用（裏面再使用、メモ用紙等）	○	再生紙を使用	継続実施
			ミスコピー、ミス印刷の消滅	△	内容を確認して印刷	継続実施
			ダンボール、ビン、缶の分別再資源化	○	街中のリサイクルステーションの利用	継続実施
			* 重点実施内容	○	再資源化の徹底	継続実施
	産業廃棄物	石山	建設副産物の分別徹底による再資源化	○	再利用率に努め	継続実施
			建設副産物の運搬時過積載禁止の管理	○	交通ルール遵守	継続実施
			電子マニフェストの使用を推進し適正に管理	○	処理業者の確認	継続実施
			再生材の利用を促進する	○	再生資源材の積極利用	継続実施
			* 重点実施内容	○	分別で再資源化の徹底	継続実施
グリーン購入	事務用品	土屋	事務用品の購入についてはグリーン製品を購入	○	環境ラベル認定品の購入	継続実施
			* 重点実施内容	○	ネットにて優良製品の検索	継続実施
環境教育	社内	川口	定期的に環境教育を実施する	○	EA.BCP教育周知 R6.4.4日、9日	継続実施
			緊急対応訓練実施 R6年4月21日	○	普通救命講習、駿東伊豆消防本部にて4名講習修了	継続実施
環境コミュニケーション	社内		内部コミュニケーション	○	必要資格の取得の会社サポート	継続実施
			社内コミュニケーション	○	各自エコ活動の情報収集を掲示して内容の共有	継続実施

5. 環境経営計画

目的	区分	責任者	活動項目	スケジュール（月）											
				5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
環境配慮施工	工事現場	川口	現場周囲の自然環境を確認し自然保護に努める												→
			廃棄物の処理先に定期的に伺い処理状況の確認												→
			再生資源の利用促進。												→
			道路工事施工時は交通量の把握												→
			現場周辺の学校や公共施設等の確認												→
			粉塵、騒音、振動を伴う作業は適切な養生。												→
			降雨による現場場外への土砂等の流失厳禁												→
			再生材料から作られた製品の優先的利用												→
			重機、工事車両のエコ運転												→
			協力業者への安全訓練の実施												→
			作業員の体調管理、理各法令遵守の教育												→
			環境に優しい施工を採用												→

5. 環境経営計画

目的	区分	責任者	活動項目	評価	実施事項	次年度の取り組み
環境配慮施工	工事現場	川口	現場周囲の環境を調査	○	低騒音型建設機械の使用。住宅地では特に配慮する。	継続実施
			廃棄物を適正に処理	○	廃棄物の処理業者の訪問	継続実施
			再生資源積極利用	○	仮設資材の転用	継続実施
			道路工事は道路事情の事前調査	○	時間帯の交通量の把握	継続実施
			現場周辺の事前調査	○	現場周辺地域の環境諸事情に応じた適切な対応配慮施工。	継続実施
			粉塵を伴う作業は、シートや散水等適切な養生。	○	特に降雨後現場から退出する車両のタイヤ洗浄	継続実施
			雨水排水による現場外への土、碎石等の流失厳禁	○	現場全体の地形構造を把握し流末に沈砂池の設置	継続実施
			建設副産物の再資源化率の向上	○	運搬時過積載防止措置で監視人の配置監視。	継続実施
			従業員への安全作業、法令順守の周知	○	教育による徹底	継続実施
			協力業者への安全訓練の実施	○	各現場にて毎月実施	継続実施
			作業員の体調管理	○	夏季の熱中症対策	継続実施
			緑化工事の留意点	○	外来植物の使用禁止	継続実施

6.環境経営計画の取組内容とその評価

◎ = よくできた

○ = できた

△ = まだまだ

× = できてない

(令和5年度の取り組み内容と評価結果)

二酸化炭素 排出量削減	電力の削減	・ 夜間休日主電源OFF、残業の削減 ・ クールビズウォームビズ ・ 空調機器のメンテナンス空調の適温化	○
	化石燃料の削減	・ ETC、ドライブレコーダー装着 ・ 高速道路利用で時間と燃料削減 ・ 施工方法、機械の的確な選定 ・ 省エネ重機、車両の使用、adoburu-搭載型	○
廃棄物 削減	一般廃棄物排出量削減	・ 再資源商品を購入 ・ リサイクルステーションの活用 ・ 可燃ごみ削減	◎
	産業廃棄物排出量削減	・ 処理業者の確認 ・ 鉄等、再資源化で有価物となるものの分別 ・ 再資源材の利用	◎
水道使用量削減		・ 漏水点検、水道メーターで確認 ・ 節水表示、呼びかけ農業用水の利用	○
事務用品のグリーン購入		・ グリーン製品の購入、ネット等で検索 ・ 再生材料の使用	○
環境配慮への取組		・ 環境配慮工事の対応状況と監視 ・ 各現場に適した配慮計画と実施	○
地域貢献活動の取組		・ ボランティア活動への参加 ・ BCP活動	○

令和5年度は、公共工事の発注数が例年に比べ減少傾向で自社の元請、下請工事も比例し少なくなりました。民間工事を含めて最終的に工事件数は多かったですが少額工事が多くをしめました。その様な状況ですが環境経営計画に沿って活動を続けた事と環境経営目標に記載した22年度実績値を中長期目標に見直した事などから目標達成数値は満たされました。

7. 次年度の取組内容

今年度より環境経営目標値を見直しをしましたが、重点項目のCo2排出削減に関して燃料消費の少ない施工方法や作業方法及び機械や設備を選定し資材の運搬経路の検討、エコドライブ、アイドリングストップなど、無理の無い取り組みを継続実施する。

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価

当社に適用される主な環境関連法規の遵守事項は下記の通りです。

遵守確認者 環境管理責任者 川口 康司

遵守確認日 令和 6年 5月 31日

環境関連法規等の名称	適用項目	条項	遵守確認
廃棄物処理法 産業廃棄物管理票	・産業廃棄物収集運搬及び処分業者との委託契約	第12条	○
	・マニフェストの管理(A・B2・D・E票の回収)	第12条第5項	該当なし
	・マニフェストの期間内返却(D票を90日、E票を180日以内に回収)		
	・マニフェストの保管(管理票の写しを5年間保管)		
産業廃棄物の保管	・管理票交付状況報告書の提出	第12条第3項	○
	・飛散、流出、地下浸透の防止	第12条第2項	○
	・保管場所に掲示板(0.6m×0.6m以上)の設置		
	・委託処分場の処理実施状況確認(年1回以上)	第10条	
建設リサイクル法	・特定建設資材廃棄物の分別 ・特定建設廃棄物の再資源化	第12条第5項	○
		第5条	
家電リサイクル法	・指定家電の収集、引渡し	第6条	該当なし
浄化槽法	・保守点検及び定期清掃の実施	第10条	○
	・法定検査の実施(1回/年)	第11条	○
自動車リサイクル法	・使用済み自動車を登録、許可を有する適正な事業者へ引き渡す	第73条	該当なし
消防法	・火災予防(事業所、現場での火災予防)	第17条の3	○
騒音規制法	・低騒音・低振動型機械の使用	施行令第1条	○
振動規制法	・低騒音・低振動型機械の使用	施行令第1条	○
省エネ法	・エネルギー使用の合理化	第4条	○
労働基準法	・全項目遵守		○
安全衛生法	・全項目遵守		○
道路交通法	・工事関内容係遵守		○
フロン排出抑制法	・全ての第一種の特定製品の簡易点検	16条	○

②-2.環境関連法規等の違反・訴訟の有無

環境関連法規等への違反・訴訟等はありませんでした。

また関係機関及び近隣からの指摘、苦情等も過去3年間ありませんでした。

9.地域貢献活動

- ・伊豆の国市建設業協会奉仕作業への参加
世界遺産韮山反射炉付近の清掃 令和5年6月



自社現場付近のカーブミラーの拭き掃除



現場周辺 地域貢献活動の実施

支障木の伐採

側溝落ち葉の回収

道路堆積土の除去



浮橋ふいれあい泉公園の草刈り作業

令和6年4月



10.エコアクション取組み活動・緊急時訓練活動

環境緊急対応訓練実施2024年4月4日

2024年4月9日、2班に分けて実施

年々夏季の猛暑日が増えてるので熱中症対策と
傷病者に対するの救護方法の確認訓練



駿東伊豆消防本部にて普通救命講習

2024年4月21日

救命処置の手順・胸骨圧迫・人工呼吸
AEDの使用方法・止血法



産業廃棄物を適正業者にて処分状況。



社内安全パトロール



毎日の朝礼 作業内容と安全指示



毎月の安全訓練



11.節水活動

工事現場で大量に使用する水は河川の水を利用



元請工事現場にて、安全防止協議会の実施



廃棄物分別活動



ビン、缶、ペットボトルは
濯いでキャップ、ラベルを
分別で資源ごみ。
きちんとリサイクル

浄化槽法定検



エコアクション中間審査2023年12月19日

岡部 審査員

工事現場の現地確認

急傾斜地対策事業

浮橋古根急傾斜地工事

現地審査 ヒアリング

現場現地確認

資機材置場視察



12. 代表者による全体の評価と見直し

取組状況確認	項 目		代表者評価
	1	環境に関する組織	近年世界中で地球温暖化の環境問題が深刻化してます 従業員それぞれが役割を認識して取り組んでいます。
	2	環境経営方針	基本方針は変更しないで継続して取り組んでいる。
	3	環境経営目標・計画	2023年度環境経営目標は見直しを行った結果、すべて目標値を達成しました。
	4	環境経営計画・取組項目	会社内で取り組みやすい項目を勉強会で各自提案し内容を共有し取り組んでいます。
	5	環境関連法規等の遵守項目	現場周辺環境を従業員が熟知し、工事の苦情、事故もありません 関連法規の違反もありません。
	6	その他システム要素	静岡アダプトロードプログラムに取り組んでいます。BCPについての役割分担を明確化して緊急対応と事業継続の計画を整えています。

・代表者のコメント

- ・今回現場の作業状況により勉強会を2班に分けて行いました。川口環境管理責任者の方からCo2排出削減、産業廃棄物の再資源化について、昨年の実績をもとに説明がされた。
燃料や資材の高騰も会社にとっては、悪影響な要因ですが無駄をなくす意味では社員の意識も高まっていると思います。緊急時の訓練は、近年の夏季の気温上昇は異常で、従業員の生命を守らなければならないことから、現場にて熱中症者が発生した事を想定し、対応訓練の実施
又、駿東伊豆消防本部にて普通救命講習を4名受講し今後、全社員の講習受講を予定してます。
これは現場でも災害時に於いても様々な所で役立つ事に成ると考えます。
- ・近年様々な要因から原油、天然ガス、石炭などエネルギーの高騰により、建設資材もウッドショック、アイアンショック、円安、輸送費の値上げに影響を受け物価上昇が収まらない事や、数年の営業実績状況より精査し4ページの環境経営目標に記載した様に基準値を見直しました。
- ・実施体制、環境経営方針、及び環境経営計画、実施体制に変更なし。

令和 6年 5月 31日

株式会社 共進土建
代表取締役 土屋 靖志